

市の総務部人事課より「世代継承塾2023」なるものが届いた。3月で退職した部長職8人の講師による、仕事への取り組み方や困難に直面した際の乗り越え方などのメッセージが紹介されている。これまでは、講話形式で行ってきたが、講師全員の話聞くことができないなどの課題があったため、今回からリニューアルし、紙上（紙面）形式で行うことにしたとある。お陰で、私のところにも届いた。以下、私の視点から抜粋したものを載せる。

自分なりに特に気に掛けていたことは『誰のために』を意識する」「初心を忘れずに」「常に課題解決の意識を持つ」です。

当時の上司から始めに言われたことは「選管職員だけでは選挙事務はできない。多くの職員の協力があって仕事ができる。だから、庁内では進んであいさつするようにしなさい」でした。

人の能力にはそれほど大きな差はなく、あるとすれば経験値の差だと思います。若手職員にはいろいろ経験をさせてください。

必要な判断力を鍛えるためには、日頃から小さな決断を積み重ねること、そして、自分自身で決めることを習慣化することです。それにより、徐々に決断力がつき、自分なりの判断基準ができてくると思います。

自分が置かれている場所や立場で自分にできることを一生懸命取り組むという「一隅を照らす」という言葉が、私の目標としてきたことであつたとあらためて思いました。

14年前のメンタルヘルス講座で、講師から教えられた言葉があります。それは「変えられるものを変える勇気を」「変えられないものを受け入れる謙虚さを」「変えられるものと変えられないものを見分ける知恵を」というものです。

上司や同僚は「合う、合わない」があると思いますが、反面教師的な場合でも、「こういうことを考えさせてくれる人だな」と考えるぐらいでいいのではないのでしょうか。

「人生においてつらいことがあると思いますが、乗り越えるためのメンタルをどう保ちますか」の問いに本田圭佑さんは、「つらい人はネガティブなんですよね。私もつらいときはありますが、それが価値だと思っています。それってすごい良い経験なわけですよね。苦しい経験をしたら次また何かあったときに生かせるはずなんですよね。でもそれをとてつもなくネガティブに考えるとそれはものすごい悪いものなんだと。僕は悪いものだと思わないから、その状況をポジティブに考えてほしいですよ」

「図面の着色、図面の折り方など簡単なようで、同じ色に、また同じ大きさに折るのはなかなかできないものです。これによって相手は、仕事に対する誠意を感じるので、心を込めてやるようにしてほしい」これは、私が新規採用時に配属された職場でつけていた日記に、当時の所属長が書いてくれた言葉です。この37年間、ずっと私の心の奥底で、北極星のごとく輝き続けてきたように思います。

すべて、教員の世界にも通じることである。「世代継承塾」いい資料をいただいた。8人の部長職の皆様、ありがとうございます。そして、お疲れさまでした。